

交通安全シミュレータ 危険予測 自動車編



体験用
ハンドル

仮想の街並みの中で、
リアルな運転体験が
できます

可搬性を確保しつつ本格的な運転体験を提供

仮想現実の世界に広がった市街地で、危険を予測しながら自動車シミュレータを運転して危険感受性を高めます。認知・判断機能の低下などを確かめる運転能力診断機能も実装、特に高齢ドライバーの事故防止に大きな効果が期待できます。



リアルなコントローラ

自動車のハンドル・ペダルを簡易的に再現しつつ、可搬性を確保した仕様。運転体験に必要な不可欠なウィンカー・ワイパーレバーを備え、各スイッチの動作はシミュレータ上に反映される。

例 体験内容のイメージ



A 後方の安全確認

ルームミラー・ドアミラーには、後ろから来る車やバイク等が写ります

B 対向車

駐停車車両の側方で衝突してしまうかもしれません

C 駐停車車両

陰から歩行者が飛び出してくるかもしれません

多種多様な交通場面

30種類以上の交通場面を収録し、「実際の交通場面に存在する危険」を数多く設定しています。同じ「サンキュー事故」でも、ビル街で発生した場合、農村で発生した場合など多彩なパターンを収録しています。これにより、さまざまなケースを想定した危険予測学習が可能です。

体験内容の例

- 一時停止のある見通しの悪い交差点
- 駐停車車両の側方通行
- 交差点の右折・左折
- コリジョンコース現象
- 駐車場内での事故
- 環状交差点の走行

基本コース



ビル街



農村



教習所



高速道路



山道



さまざまな機能

リプレイ



体験後に、自分の運転をリプレイで確かめることができます。第三者の視点になって振り返ることで、自分の運転の見直しと危険ポイントの再確認ができます。

体験内容を診断・表示



運転体験の結果に応じて、事故・ヒヤリハット・交通違反等の回数と発生状況を診断し、安全運転のためのアドバイスが受けられます。また、結果については、画面表示・プリントアウトも可能です。

プロジェクター出力

プロジェクター等へ映像を外部出力できます。集合教育の際、体験者以外の参加者にも画面を見せることができ、より多くの人数に対して効果的な教育が可能です。

体験の流れ (自動車編)

※指導者がコースを選択する場合。体験者自らコースを選択することも可能



1 体験コースの選択

指導者がタッチパネルで体験するコースを選択します。



2 運転体験

ハンドル、アクセル・ブレーキペダルを操作して運転体験をスタートします。



3 結果表示・出力

走行結果を総合的に診断し、5段階で評価します。オプションでプリントアウトも可能です。